

令和7年度

学校自己点検・評価報告書

令和8年1月

筑波研究学園専門学校

自己点検・評価委員会

## ■「学校関係者評価委員会」について

筑波研究学園専門学校は、「工業分野」「商業実務分野」「教育・社会福祉分野」の3つの専門課程の認可を受け、専門的知識と技術とともに、高い教養を有する人間性豊かな人材を育成し、地域社会の発展と文化の向上に寄与することを目的として運営しております。

平成19年12月に学校教育法が改正され、4年制大学や短期大学と並んで専門学校においても学校評価制度が義務付けられました。本校では、平成18年度に「自己点検・評価委員会規程」を制定し、平成19年度より「自己点検・評価」を実施してきました。

また平成26年度からは文部科学省の「職業実践専門課程の認定」を受けたことを踏まえ、一層「学校運営の適正化」と「教育内容の充実」を図るため、「学校関係者評価委員会」を活用しています。

## ■令和7年度 学校自己点検・評価について

1. 対象期間 令和7年度（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

### 2. 実施方法

(1) 実施組織：学校自己点検・評価委員会

○委員長 野口 孝之 筑波研究学園専門学校 学校長

委員 岡田 地余 筑波研究学園専門学校 ITデジタル学科長

齋田 光幸 筑波研究学園専門学校 自動車整備工学科長

中野 大希 筑波研究学園専門学校 建築環境学科長

宮本 晃太 筑波研究学園専門学校 医療情報学科長

福田 翔平 筑波研究学園専門学校 こども未来学科副学科長

松田 静佳 筑波研究学園専門学校 こども未来学科副学科長

湯浅 敏弘 筑波研究学園専門学校 総務部 部長

水越 武 筑波研究学園専門学校 教務部 副部長

杉山由紀夫 筑波研究学園専門学校 入学・学生支援部 部長

谷口 和巳 筑波研究学園専門学校 入学・学生支援部 副部長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠しています。

(3) 評価方法：授業アンケート、教員自己点検・評価、各学科及び部門の自己点検・評価をもとに、自己点検・評価委員会を開催し、学校自己点検・評価を取りまとめています。

### 3. 評価項目

- |             |                |
|-------------|----------------|
| (1) 教育理念・目標 | (7) 学生の受け入れ募集  |
| (2) 学校運営    | (8) 財務         |
| (3) 教育活動    | (9) 法令等の遵守     |
| (4) 学修成果    | (10) 社会貢献・地域貢献 |
| (5) 学生支援    | (11) 国際交流      |
| (6) 教育環境    |                |

### 4. 評価項目に対する評価

各項目について、次の4段階を基準とし、点数を0.1刻みで評価しています。

4：適切      3：ほぼ適切      2：やや不適切      1：不適切

## 5. 校訓、教育目標、教育方針

### ◎経営理念

「開かれた高等教育機関」の実現

### ◎教育理念

「産学官民」協同による教育

### ◎校 訓

自 主：自分で考え判断し、自らの意志と責任によって行動する

協 調：相手の立場を尊重し、互いに助け励まし合う

創 造：自らの創意と努力によって、新しい道を切り拓く

### ◎教育目標

- ・型にはめない教育を実践し、個性を最大限に伸長する
- ・基礎学力と専門技術の調和のある学習を通して、有為な人材を育成する
- ・新たな世界へ挑戦する不屈の精神を涵養する

## 6. 令和7年度の重点項目

### 3. 教育活動

- ・専門分野におけるDX授業の推進
- ・キャリア教育の促進、コミュニケーション能力の育成
- ・主要資格の合格率向上
- ・単位制導入に向けた準備

### 7. 学生の受け入れ募集

- ・学生（高校生等）視点、受け入れやすい方法での情報提供の重視
- ・広報活動の戦略的な展開
- ・外国人留学生と日本人学生とのバランスの取れた募集の実施
- ・地域別募集活動の強化
- ・外国人留学生の募集の強化

### 11. 国際交流

- ・外国人留学生に対する支援体制（就職活動支援を含む）の整備
- ・新たな留学生専門学科の創設（令和8年度予定）とその募集開始

## 1. 教育理念・目標

No	設問	R6 評価	評価点
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4.0	4.0
2	専門分野における職業教育の特性は明確か	4.0	4.0
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4.0	4.0
4	学校の理念・目的・育成人材像・職業教育の特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4.0	4.0
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.9	3.9

### 【 状況・課題 】

- ・校訓「自主・協調・創造」を基盤に社会人基礎力の育成を重視し、90分授業の特性を生かしたAL<sup>※1</sup>型学習を導入した。意見交換や協働的な学修を通じ、コミュニケーション能力の向上を中心とした基礎的能力の育成に向けた基盤づくりを行った。
- ・校訓のもと、学生の主体性を重視した学校行事への参画を推進した。  
[学園祭] 労働者人口減少に伴うグローバル化を見据え、将来の職場における外国人との共生をテーマに、学生主体でパネルディスカッションを企画・運営し、多文化共生への理解と国際的視野の醸成を図った。  
[スポーツ大会(1年)] 外国人学生が活躍し、互いに応援し合う経験を通じて、クラス・学科・学年を越えた連帯感とまとまりの形成につながった。
- ・学内においてキャリア教育の実践を重視する中、留学生に対しては就職支援につながる体系的なキャリア教育の充実が今後の課題である。

### 【 改善方策 】

- ・留学生の就職を見据え、日本語コミュニケーションやビジネスマナー教育を通じて、日本企業で働く基礎的素養の育成を図る。

### 【 特記事項 】

- ・第二次経営五か年計画を策定し、課題への取組と改善を図っていく。
- ・本校では実学重視の教育を実践しており、関連機関との教育連携を図り、専門分野の業界や企業等での現場実習を通して、実社会で求められる専門知識と豊かな人間性を養うことを大切にしている。
- ・グローバル社会の発展に貢献するため、国際自動車整備工学科に続き、令和8年度から国際ITビジネス学科を新設する。

※1：AL (Active Learning)：学生が能動的に学び、知識を活用して問題解決能力を養う学習法

## 2. 学校運営

No	設問	R6 評価	評価点
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4.0	4.0
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4.0	4.0
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.9	3.9
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4.0	4.0
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.8	3.8
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.8	3.8
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.9	3.9
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.8	3.8

### 【 状況・課題 】

- ・重点項目「教育の質向上」「学生募集の強化」「国際交流」について、90分授業やICT活用による授業改善、多文化共生を意識した交流活動を通じ、教育活動の充実を図った。
- ・学生募集については基本活動の進捗が遅れ、十分な取組には至らなかった。
- ・人事評価制度の素案を作成し、来年度より運用開始する。
- ・学校情報に関する情報公開を過不足なくタイムリーに行った。
- ・教育活動の情報発信には課題が残った。
- ・各会議においてタブレットを活用し、配布資料の電子化を進めた。
- ・ICTを活用した学校行事や業務日程の共有について、次年度からのシステム運用に向けた準備を進めた。
- ・出席状況をシステムで確認できるようになり、リアルタイムでの指導が可能となった一方、指導記録のシステム化には至らなかった。
- ・全教職員向けに、学校業務での生成AI活用に関する研修会を実施した。
- ・カレンダーツールを用いた業務の見える化のための準備をした。

### 【 改善方策 】

- ・基本活動の計画・実行を徹底し、学生募集体制の立て直し、質の向上を図る。
- ・教育活動の情報発信については、学科および各部門が主体的に取り組む体制を強化する。
- ・学籍管理システムでの指導記録管理のための運用ルールを定め、令和8年度より開始する。
- ・教職員向けに生成AIの活用状況を調査するとともに、さらなる活用を促進する。

### 【 特記事項 】

- ・経営五か年計画に沿った事業計画が毎年策定されており、計画に基づいた取組と改善を行っている。

### 3. 教育活動

No	設問	R6 評価	評価点
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.9	3.9
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.8	3.8
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.9	3.9
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.9	3.9
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.8	3.8
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.8	3.8
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.8	3.8
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.9	3.9
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0	4.0
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.9	3.9
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.8	3.8
12	業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3.8	3.8
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための取り組みが行われているか	3.8	3.8
14	教職員の指導力育成や能力開発など資質向上を目指した研修等が行われているか	3.8	3.8

#### 【 状況・課題 】

- ・令和8年度からの単位制導入に向け、教育課程の見直しを進めている。
- ・AL型グループ学習やICTを活用した授業を実施し、発表や協働的な学習を通じて、実践的な職業能力とキャリア意識の育成を図った。
- ・BYODやTeams、生成AIを活用した授業を行っているが、ツールの活用が発表や資料作成にとどまる場合もあり、より実践的な活用方法の検討が課題である。
- ・各学科で企業連携授業や企業訪問、内定者実習、OB・OG講座、自治体・実習施設との連携を通じて、業界理解の深化と知識・技術の習得、職業意識の育成を推進した。
- ・授業アンケートのペーパーレス化に加え、集計・分析結果のフィードバックを電子媒体にて可能とした。
- ・新たな専門領域への対応に向け、常勤教員の専門性拡大と外部講師の活用体制の整備が課題となっている。
- ・各学科において、企業連携やICT・生成AI、BIM・ドローン、医療・保育ICTなど最新技術を取り入れた実践的教育を推進し、専門性と社会ニーズへの対応力を高めた。
- ・各学科においては、企業等と連携した教員の指導力向上を目的とした研修を実施した。
- ・全教職員を対象に、業務効率化を目的とした生成AI活用研修を実施した。

#### 【 改善方策 】

- ・単位制導入の趣旨や変更点について所轄庁と連携しながら、円滑な導入に向けた準備を着実に進める。

- ・学生同士の学び合いを促進し主体性を育成するとともに、AL 型授業の実践例を教員間で共有し、教育方法の改善につなげる。
- ・各学科での企業連携授業や実習の計画性を高めるとともに、AL 型学習や ICT 活用と連動させ、学習成果や職業意識の記録・評価を体系化し、学科間で事例を共有することで教育効果の向上を図る。
- ・授業アンケート結果を教員間で共有し、指導方法の改善や学習教材の充実に繋げる。
- ・外部委員から頂いた意見をもとに教育活動の充実と改善に継続的に取り組んでいく。
- ・常勤教員の研修・資格取得等による専門性の拡大を図るとともに、外部講師の活用体制を整備し、新たな専門領域の授業運営を図る。
- ・e ラーニングを活用し、他校における ICT 活用やグループ学習の取組事例について、積極的な視聴・見学を推進する。
- ・管理者研修については、教職員評価システム（自己評価及び業務評価）に関する研修会を計画する。

#### 【 特記事項 】

- ・建築環境学科では、今後の専大連携との可能性も見据えたカリキュラム案を構築する。
- ・本校では全学的に AL 型グループ学習の導入を進めるとともに、実社会で ICT ツールを活用して業務を遂行できる力の育成を目的とした授業運営を推進している。

#### 4. 学修成果

No	設問	R6 評価	評価点
1	就職率の向上が図られているか	3.9	3.9
2	資格取得率の向上が図られているか	3.7	3.7
3	退学率の低減が図られているか	3.6	3.5
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.7	3.7
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3.6	3.6

##### 【 状況・課題 】

- ・2025年3月卒の就職率は100%を達成した。
- ・2026年3月卒の内定状況は96.1%（12月末）、年度内に100%に達する見込みである。
- ・各学科では合格者輩出を目的とした資格取得対策を実施し、一定の成果を上げている。
- ・留学生向けには日本語能力試験やビジネス系資格などの別枠指導が必要とされている。
- ・建築環境学科は、他学科と比較して退学率が高い傾向にある。

##### 【 改善方策 】

- ・特に内定時期が遅れ気味の学科については、入学時から計画的なキャリア教育を強化し、就職率100%維持と専門分野への早期内定実現を図る。
- ・対象学科では、留学生向け試験対策を含めたカリキュラム導入と、各専門分野の資格取得を併せた対応方策の検討を進めている。
- ・授業担当教員・担任・学科長が連携し、欠席や学修意欲低下を早期に把握する。個別面談等による継続的な支援を行い、退学の未然防止を図る。

##### 【 特記事項 】

- ・学校全体の退学率が全国平均をやや上回っている現状を踏まえ、全学科及び各部門が全国平均を下回る水準を目標に、学生指導および支援体制の一層の強化に取り組む。

## 5. 学生支援

No	設問	R6 評価	評価点
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.9	3.9
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.7	3.7
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.9	3.9
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.6	3.6
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.7	3.7
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3.7	3.7
7	保護者と適切に連携しているか	3.8	3.8
8	卒業生への支援体制はあるか	3.7	3.7
9	社会のニーズ（社会人受入）を踏まえた教育環境が整備されているか	3.7	3.7
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.7	3.7

### 【 状況・課題 】

- ・キャリア相談窓口にてキャリアコンサルタントによる個別相談を実施した。
- ・キャリアコンサルタントによるキャリア授業に社会人基礎力、非認知能力を強化する内容を追加し、実施した。
- ・学生の相談に適時対応し教員間で情報共有と面談による生活・学習支援を行う体制を整え、相談しやすい雰囲気づくりに一定の成果が見られたが、引き続き日常的な声かけによる支援強化が求められる。
- ・欠席や学業不振等の兆候に対して早期指導を行い、必要に応じて保護者面談や連絡、三者面談を実施した。
- ・学納金や奨学金を含めた学校生活全般について保護者と連携して対応した。
- ・高専連携での出前授業やガイダンスの質向上に向け、授業が高校生のニーズを把握し、提供内容が適切であるかの検証が必要である。

### 【 改善方策 】

- ・留学生の増加を踏まえ、企業開拓の強化と併せ、留学生の特性に配慮した就職指導体制の充実を図る。
- ・学生指導内容の記録と共有を図り、不安や悩みを抱えた学生に対して学科全体で継続的な支援につなげる。
- ・高専連携での出前授業については、終了後にアンケートを実施し次年度のプログラム内容の改善に反映していく。

## 6. 教育環境

No	設問	R6 評価	評価点
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.7	3.7
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.8	3.8
3	防災に対する体制は整備されているか	3.9	3.9

### 【 状況・課題 】

- ・全館 LED 化に対応していないため、早急に対応する必要がある。

### 【 特記事項 】

- ・経営五か年計画に基づき、学校施設の大規模修繕とともに学習環境の整備に努めている。

## 7. 学生の受け入れ募集

No	設問	R6 評価	評価点
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4.0	3.7
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.6	3.6
3	学納金は妥当なものとなっているか	3.8	3.8

### 【 状況・課題 】

- ・学生募集活動において、高校訪問、キャンパスガイド制作、ホームページ更新、オープンキャンパス開催案内など各施策について、実施時期や内容の精査が十分とは言えず、計画性の面で課題が残った。
- ・前期は担当職員の退職により体制が一時的に不安定となり、計画どおりの実施が困難な状況が生じた。一方、後期には人員体制が整い、次年度に向けた学生募集施策の準備が着実に進んでいる。
- ・日本語学校の専属担当を配置し、県内外の日本語学校との関係性を強化した。
- ・入試制度については、他校の実施状況を踏まえつつ、本校の特色や強みを生かしながら、運営の効率化を図る必要がある。

### 【 改善方策 】

- ・各募集活動の年間計画の見直しに着手し、内容を精査するとともに、各部門・各学科で情報共有を行い、計画的かつ募集システムを最大限に活用した実施体制を整える。
- ・主要業務を複数人で共有し、引き継ぎマニュアルを整備することで、職員不在時にも業務が滞らない体制を構築する。
- ・他校の実施状況を参考に本校の特色を維持しつつ、入試時期や方法を見直し、ICT を活用して入試運営の効率化を進める。

## 8. 財務

No	設問	R6 評価	評価点
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.8	3.8
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4.0	4.0
3	財務について会計監査が適正に行われているか	3.9	4.0
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4.0	4.0

### 【 状況・課題 】

- ・計画的な「債務圧縮」と「流動資産の増加」を図っている。
- ・資金繰り、予算管理について、常勤理事会に毎月報告し月次管理している。
- ・毎月、公認会計士の財務点検を受けるとともに、決算時には監査報告書をいただいている。
- ・財務状況を毎年6月にホームページで情報公開している。

### 【 特記事項 】

- ・ここ数年、収支損益及び資産状況が改善されてきているが、債務圧縮の課題がある。

## 9. 法令等の遵守

No	設問	R6 評価	評価点
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.0	4.0
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0	4.0
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.9	3.9
4	自己評価結果を公開しているか	4.0	4.0

### 【 状況・課題 】

- ・USBメモリ等での情報資産の取扱いを規程に沿って対応した。
- ・在校生に対して、TIST情報セキュリティー8か条を説明した。
- ・ハラスメント規程を改定した。
- ・生徒の懲戒に関する規程を改定した。
- ・弁護士によるハラスメント事例の研修会を開催した。

## 10. 社会貢献・地域貢献

No	設問	R6 評価	評価点
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.9	4.0
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.7	3.7
3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4.0	4.0

### 【 状況・課題 】

- ・教育訓練（公共職業訓練）を実施した。
- ・12月に来年度のプロポーザルに参加した。
- ・学友会の活動として地域イベントに協力した。
- ・労働局関連の就職支援事業も参加するか検討していく。

## 11. 国際交流

No	設問	R6 評価	評価点
1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか		
2	受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4.0	4.0
3	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか		
4	学内で適切な体制が整備されているか	3.8	3.8

### 【 状況・課題 】

- ・在留資格更新手続き以外の業務を整理し、入学・学科・教務・総務の役割分担を明確にした。
- ・在留資格の申請取次者を増員（教務部、留学生受入学科に配置）し、在留資格更新手続きのサポート体制を強化した。
- ・留学生の増加に伴い、教務部に在留資格更新、生活相談、学費相談などに対応できるよう留学生担当職員を配置した。

### 【 改善方策 】

- ・留学生の生活相談、学費相談の対応について体制を強化する。
- ・手順書の見直しを定期的に行い、事務作業の効率化を進めていく。

### 【 特記事項 】

- ・自動車整備工学科に続き、IT デジタル学科も「外国人留学生キャリア形成促進プログラム」に認定された。
- ・受入状況の届出を、出入国在留管理局に遅延なく行うなど入籍管理を適切に行い、出入国在留管理局より「適正校（クラスⅡ）」として選定された。